



# *Agora* アゴラ



1994年4月 第59号

鶴見大学図書館報

## 本・図書館・書評

文学部教授 橋 口 稔

### 本

大学生が本を読まなくなった、と言われるようになって久しい。今の大学生は、そう言われても何のこともよく分らないのかも知れない。時代の流れの中で、本というもののそれ自体も変わってきているのである。

昔大学生が読んだとされる本というのは、劇画や漫画の本ではもちろんなく、教科書や参考書でもない。それは、詩や小説や随筆や伝記や旅行記や歴史や哲学や社会科学の本であった。昔だって、そういう本を読まない大学生もたくさんいたであろう。しかし、本を読んでいる大学生もたくさんいた。

もう四十年以上も昔のことであるが、私も大学生として、授業にはあまり出なかったけれども、本は読んでいた。旧制度の最後の頃で、文学部だったからかも知れないが、本さえ読んでいれば単位を取ることができて、卒業することができた。

それでは、どうして大学生は本を読まなくなってしまったのであろうか。基本的な理由として、二つのことが考えられる。

一つは、テレビの普及で映像という媒体が大

### 目 次

本・図書館・書評……………橋口 稔…	1
図書館のすすめ……………堀込静香…	4
今年度「展示」案内……………	7
4月・5月の図書館催し物のお知らせ…	8
新刊あらかると……………	10
図書館だより……………	12

きな影響力を持つようになって、文字という媒体が軽んじられるようになったことである。

もう一つは、主として入学試験の影響によって、勉強が断片的な知識を集めることになってしまったことである。

今となっては、テレビの影響力をなくすことはできないし、入学試験の内容も改められそうにないから、大学生が本を読むようになることを期待するのは、不可能のように思える。

しかし、それでもやはり、今の大学生も、昔の大学生が読んでいたような本を読む必要があると私は考える。大学は、単に専門的な知識と資格を與える場所ではなく、それ以上のものを学ぶ場所でなければならないからである。

大学に来る者は、まず勉強する意欲を持っていなければならない。大学の教師はその意欲に答えて、勉強を助けることしかできない。勉強は自分で本を読んでするしかないのである。

### 図書館

大学に図書館があるのは、文部省の認可のためにそれが必要だからではなくて、学生に本を読ませるためである。大学の教育のために、本来、図書は必要欠くべからざるものだからである。図書館には、単に知識を與える辞典や辞書や教科書や参考書だけでなく、昔の大学生が読んだとされるような本も備えられている。

じつは私が大学生の頃は、あまり図書館を利用しなかった。本は自分で買うか、友達に借りるかして読んでいた。図書館が、今よりもずっと利用しにくかったからでもある。

図書館の本を借り出して読むようになったのは、アメリカの大学で勉強した時からである。今では日本でも普通になっている、いわゆる「開架式」を初めて経験して、手軽に借り出せるのに感心した。ただし、現在のように本に特殊な処置をほどこすことはまだ行われていなかったから、図書館を出る時には鞆の中を必ず

調べられた。

もう一つ感心させられたのは、蔵書を検索するためのカードがよく整備されていることであつた。著者名と図書名で検索できるだけでなく、著者やテーマによって参照できるカードが数多くつくられていた。一冊の本について数枚のカードがつくられているように思われた。この点で、日本の図書館はまだ整備されていないように思われる。

もっとも、それは日本で出版される本そのものの不備とも関係している。欧米の本は、研究書はもちろん、一般書でも、たいい索引が付いている。人名や地名だけでなく、いろいろな項目で索引が付けられている。それがそのまま、図書館の参照カードに生かされて行くのである。

図書館は、読む本を提供するだけでなく、一冊の本からべつの本へと、つぎつぎに関心をひろげて、つなげて行く手助けをする場所になる必要があるであらう。

そうは言っても、一つの図書館が備えることのできる蔵書には限りがある。得意とする専門分野にかたよることはやむを得ない。それでも、古典的な図書はできるだけ広い分野にわたって備えることが望ましい。

現在のように新しく出版される本の多い時代には、どの本を購入しておくべきか判断がむずかしい。購入書の選択に、図書館の見識が問われることにもなる。

### 書評

本を読むようになってからもう半世紀になるが、その後本を書いて出版するようになった。専門からいって、主として英文学の翻訳の本である。

最近出したのは、リットン・ストレイチーという伝記作家の『ナイティンゲール伝』という翻訳書で、岩波文庫の一冊として刊行された。原書は Eminent Victorians (『著名なヴィクト



リア朝人たち』で、1918年に出版されたものである。そこには、聖職者のマニング枢機卿、女性のナイティンゲール、教育者のアーノルド博士、軍人のゴードン將軍という四人を扱ったあまり長くない四篇の伝記が収められていた。

私の訳書は、そこから女性と教育者のもの二篇を取り出して、表題を「ナイティンゲール伝」としたのである。あとの二人については、日本では興味を惹きにくい人物であったので、無理をして訳出しなかった。翻訳がむずかしいだけでなく、内容を理解してもらうためには、注を数多く付けねばならず、それがまた読者に敬遠される原因になりかねなかったからである。

ところで、ストレイチーという作家は、伝記作家として日本でもある程度名前を知られており、伝記が話題にされる時にはよく引き合いに出されるのだが、実際にはあまり読まれてはいないように思われる。そこで、岩波文庫の一冊として出してみたのである。



それだからということかは分らないが、ある新聞で、文庫本にしては意外に大きく書評の対象にされることになった。ところがそれは、原書から二篇だけを選んだのはいけなしいとして、四篇全部を訳すべきだったという趣旨のもので

あった。原書は、弦楽四重奏か、四つの楽章からなる交響曲のようなものだからというのである。もっとも、そう書いてあるのは書評全体の四分の一くらいで、あとはナイティンゲールの伝記の筋を書いて、お茶を濁している。

四つの伝記を全部訳すにこしたことはないに決まっているが、それでは分量が三倍くらいになってしまう。アーノルド博士のものは特に短く、訳さなかった二篇は特に長いのである。さらに、その二篇では特に多くの注を必要とすることになろう。第一楽章はマニング枢機卿ということになるから、たぶん多くの人がその終りまで行かないうちに席を立ってしまうであろう。

書評を書いた人は原書を読んでいないに決まっているから、反論を伝えても無駄だとは思ったが、その後ある機会に偶然その新聞の論説室の人に会う機会があったので、書評の質の低さを批判するだけしてみた。折り返し、その書評自体の質のよくないことは認めるが、他の二人の伝記も読みたいという意味にとって了承してほしいという電話があった。それで一件落着であった。

昔ならば、文庫に入れられる作品は古典的なものという了解のようなものがあったが、今はそんなものもなくなっている。最近、文庫のような廉価な本でも売行きはよくない。新聞の書評に取り上げられたからといって、それで売行きがよくなるということもない。本はこの先どうなっていくのであろうか。

## 図書館のすすめ

短大部助教授 堀込 静香

はじめに

新入生のみなさん、ご入学おめでとう。受験から解き放たれてほっとするとともに、これからの大学生活に期待と不安もちょっぴり持っていることと思います。

さてみなさんは大学でなにをしたいと考えていますか。これからは羽をのばして大いに遊ぼう！という方もいるでしょう。また高校では不十分だった文学や医歯学、あるいは保育の専門的な勉強に早くとりかかりたい、という方も多いと思います。

本格的な授業に入る前にいろいろ指導があり、高校時代とは違うなあ、という印象を持ってきたことでしょう。

大学ですからなんといっても学問するのが目的です。社会に役立つ知識・教養を身につけ、資格を得ることも一つの目標でしょう。これまでと違った勉強方法があるかも知れない…なにやら未知の世界がありそうです。

そして、大学には図書館があります。これまで図書館を一度も利用したことがない、という方はないと思いますが、大学図書館とはみなさんにとってどんなところなのでしょう。

### 大学の情報センター

少し前まで大学図書館は「大学の頭脳である」といわれていました。現在でもその意味は変わっていませんが、「大学における情報センター」といわれています。

人は常に「情報」を必要としています。現在の社会生活で「情報」は食物・エネルギーより以上に重要と考えられ、自分にとって必要な情報をいかに早く、無駄なく、入手できるかがことの成否を決めるといっても過言ではありません。日常生活でもテレビ・ラジオ・新聞などや

電話・ファックスで情報をキャッチしています。

その情報のぎっしり詰まっているのが「大学の情報センター」大学図書館なのです。図書館というと黴臭い本、古ぼけた雑誌があたかも眠りをさまされるのを嫌うように、じいっとしている、暗いイメージをあたえますが、情報センターは生き生きしていて明るい。ビデオ・レーザーディスクあり、電子図書あり、コンピュータによる貸出や検索といった情報基地なのです。

### 自学自習

大学での授業は、1時間の講義に対して1時間の予習と1時間の復習を必要とします。その予習・復習は多くの場合授業時に指示されるのではなく、自発的にしなければつぎの講義について行けない、単位をとれない結果になってしまいます。大学ではとくに自学自習が求められるのです。

また課題が多く出され、そのうちいくつかは自分でテーマを決めたり、多くの専門書を調べる、データや文献を探す、何枚ものレポートや論文にまとめる、という作業もあります。あるいはサークルでの調査結果の発表や大学祭などのテーマ研究もあるでしょう。このような授業に直接関係のない調査研究こそが大学生活の醍醐味といえるのではないのでしょうか。

年間100冊の読書を求める教授もいらっしゃるようです。より深く専門分野の研究を、より広く周辺分野の吸収を、最も大事な基礎的な教養を得るためには、図書館という情報センターの利用が有効的です。図書館にはさまざまな資料があり、専門的参考書や種々の調査報告書、速報性のある新聞・雑誌、データベースなどが利用を待っています。自分の勉強部屋ではどうも解決がつかないような問題も図書館の資料



を駆使することで片づきます。多くの専門書・参考データを必要とする場合も図書館の存在は貴重です。大学生活では図書館で学ぶことが期待されているのです。

### 図書館のすすめ

図書館のシーンは映画や小説にも時折出てきます。デイトの場所に使うというものなかなか知的で素敵です。雰囲気がいかに勉強に向いている、と受験生時代に通った人もいますでしょう。私はこうして図書館を利用している、図書館活用術とは、図書館を「しゃぶりつくした、ゼエ…」という本が何冊もでています。そのいづれもが図書館は席貸し、貸本屋（レンタルボックス）ではない、といっています。図書館の全機能を、とくに情報のいれもの、図書・雑誌などの資料を十分利用して、図書館で情報要求を満たしているのです。そしてたまには息抜きに音楽を聞いたり、美術書を眺め、新聞で昨日の出来事を追ったりしています。図書館を楽しんでいるようです。

では、どんなときに、どんなふうに使えばいいのでしょうか。なにもきまりがあるわけではありませんが、一般的には「何か疑問が起きたとき、調べに行く」のでしょう。大学の授業や課題に関係あるまじめな内容はもちろん、どんな小さな疑問でもいい、「あの桜は何という種類なのだろう」「紫式部とシェイクスピアはどちらが古い時代？」「日本で初めて入れ歯を使ったのはいつ頃か」などふと思いついた疑問をゲーム感覚で探すと、時間のたつのを忘れます。

特に大学あるいは短大では自分で調べて、その結果をまとめて、提出・発表することが頻繁にあります。自分の手元にあるテキストや参考書では何もわからないことばかり、ということが実に多くてがっかりすることでしょう。では、参考書や事典を全部買わなければいけない！？そんな場合のスーパーマン、便利になるところ

が図書館なのです。

情報は図書館にあり、しかし…

図書館は情報の宝庫です。文学・保育・歯学の専門書ばかりでなく、大げさにいえば全分野、あらゆる種類の情報があります。ただその情報の形が図書や雑誌、ビデオテープやコンピュータファイルのように記録物になっている点が特徴です。ですが世界中の記録された情報を一図書館で収集保管することは物理的にも不可能ですから、それぞれの図書館でその図書館の利用者に最適な資料構成を作っています。大学図書館ではその学問分野に密接な情報を収集しています。また比較的せまい範囲をカバーする専門的な図書館もあります。

必要に迫られて、あるいはふと知りたくなって図書館に足を運んだとき、見るのは資料で、その中に必要情報があります。このことはすでに十分体験していることと思います。

ところが、教育・研究に関係ある図書館や専門的な図書館では、同じテーマを扱った図書を何冊・何十冊も、雑誌を数十種備えています。図書館には情報、あるいは情報の基になる資料が幾つもあるのです。どれを見たらいいのか、迷うほどです。自分が求めている情報や答、あるいはその候補は資料の中にあるのですが、情報が幾つもあっては困る場合もあります。天気予報は正確な予報が一つあればいいのです。ですが、学問や研究の世界では何かの事態や研究がまだ中間的な位置にあって、研究途上、開発中、定説がない、ということもあります。また、図書や論文はそれを書いた著者の意見が強く表現されていることが普通で、人と異なる考えを発表することも多いものです。膨大な、といえる資料が出版されているのです。したがって情報の内容が異なることがあり、また求めている「答」は1冊の参考書だけでは満足いく内容に満たないことも多いのです。

情報を探し、選ぶことができるように

大学図書館に入ってみて驚くことのひとつは同じように見える専門書が沢山あるばかりではなく、辞書や事典がいく種類もあることでしょう。その中から自分で最適と思う内容の載っている資料を選ぶことが大学図書館で学ぶことの重要なポイントです。そのためには事典ならいくつかを、できれば関係ある事典を全部引き比べて、どれがいいかは自分で決めるという、作業をやってみてください。まったく同じような内容しか得られないこともあれば、他にはない大事な情報を含んでいる資料もあるはずです。何冊、何種類もの資料を利用して初めて納得いく情報や「答」を見つけることができるのが、ふつうです。大学・短大での学習・研究のあり方は、実はここに 있습니다。これまでとは違った学習・調査態度が求められています。

さらに調べた結果をレポートにまとめる必要性もありましょう。調べ方が悪い、重要な参考書を読んでいない、調査不足、としてやりなおしを命じられないようになりたいものです。情報を効率的に得ることができるように工夫されている資料や、情報の基である図書や論文・記事を探し選ぶことができる資料があります。辞書・事典・統計書・年鑑・ハンドブックという類の資料は整理されコンパクトにまとめられた情報源です。図書・論文・記事を探すための資料を「書誌」といいます。これらは図書館で学ぶための第一の資料で、まずそれを使いこなせる技術を身につけてほしいと思います。事典類や書誌を使いこなすことで調べる時間と労力が節約できます。調べる楽しみが倍增することでしょう。

そして図書館の職員は利用者であるみなさんの情報の探索と入手のアドバイスや援助をしてくれます。またより幅の広い高度なサービスもあり、データベースによる迅速効率的な情報検索もできます。あるいは図書館にない資料・文

献の取り寄せや他大学図書館・専門図書館の利用も可能、という図書館ネットワークも整備されています。図書館の利用技術は大学生活ばかりでなく、社会生活においても生きることを確信します。

## 図書館のサービス・資料を知ろう

とにかく気軽に図書館へいってみることをまずすすめます。大学の中でいちばんぜいたくな場所、といえます。広い閲覧机は大きな本を何冊も広げても大丈夫です。床のジュースタンは騒音を吸収してくれます。椅子の座り心地がいいこと！

そして何よりもうれしいのは資料です。ざっと計算してみます。1993現在、図書は435,657冊あり、年間約20,000冊増加しています。大学には4,105人の学生が在籍していますので、学生ひとり当たりの蔵書数は約100冊ということになります。この100冊という数は、2年や3年では読みきれない冊数です。自分では買えないような高価な本や専門書、事典なども含まれます。このほか、雑誌は9,500種類所蔵しています。さらにビデオ・レーザーディスク・カセットテープなど視聴覚資料もあるのです。利用できる時間も夜7時まで、当然冷暖房完備、少しの間なら居眠りも気持ちいい、素晴らしい場所です。

図書館を最大限利用するためには図書館の仕組み・サービス・資料を知ることがいちばん大切です。

まず 図書館利用パンフレットをもらう

図書館探検をする

ガイダンスを受ける

貸出カードを発行してもらう

つぎに 開館時間・貸出冊数と期間を知る

自分の専門分野の資料の在処を知る

辞書・事典のコーナーを観察しながら

数回歩き回る

(以下、次頁へつづく)



## 平成6年度展示案内

### 第1回 「ロビンソン漂流記とガリヴァー旅行記」 —デフォーとスウィフトの本—

5月9日(月)～28日(土) 於図書館

詩(韻文)が主流であったイギリスの文壇に小説が登場したのは17世紀末のことで、印刷屋のリチャードスンが書いた書簡体の「パメラ」であるという。その後、18世紀初頭になってダニエル・デフォーの「ロビンソン漂流記」とジョナサン・スウィフトの「ガリヴァー旅行記」がでて、イギリスは本格的な近代小説の黎明期を迎える。17世紀から18世紀にかけてのイギリスは、民権と個人の自由を基調とする近代市民社会の形成期にあって、市民は古典的な詩や論文よりも平易な散文を享受した。そうした背景を踏まえつつ、この2作品がなぜあれほど当時の読者層に愛読され、以後今日まで読み継がれたのかを、各時代に出版された諸版とわが国での翻訳(「ロビンソン漂流記」は幕末には既にオランダ語より抄訳されて出版されていた)を通じてその秘密を探ってみたい。

### 第2回 特別展「古典籍と古筆切」

—総持学園創立七十周年記念・鶴見大学大学院文学研究科博士課程開設記念—

10月17日(月)～22日(土) 於丸善日本橋本店ギャラリー

図書館が20年近くの歳月をかけて収集してきた国文学を中心にした古典籍は、ようやくコレクションと呼ぶに値する質量を備えてきた。上記の記念に際しても、「思想と学芸」「うたのこころ」「物語の世界」「筆のまにまに(随筆と日記)」「和と漢と」という5つのテーマを掲げて、外部での展示会を実現しようとしている。古典の研究は、その作品の伝本の収集・整備あるいは本文系統の確立の上に成り立っている。従って原資料の持つ意義と価値には計り知れないものがある。今回の展示では、中古・中世の典籍を中心に古筆切も加え、豊かで華麗な古典の世界を展開させていく。

### 第3回 「江戸時代の西洋医学」 —解剖書を中心にして—

11月14日(月)～12月2日(土) 於図書館

今年1月に「漢方と泰西医学」というテーマのもとに古医書の目録を上梓することができた。中国や日本のものに加え西洋医学の翻訳書など、465点1826冊を著録し得た。その掲載書目の中から馴染みのある西洋医学書を、特に解剖書を中心に紹介したい。日本の近代医学は、その淵源を江戸時代の中頃までさかのぼることができる。1774年に出版された「解体新書」がそれで、以後西洋医学を移入・吸収して蘭学という日本独自の文化を形成し、やがて明治の近代医学へと発展していく。明治初頭までに出版された西洋医学書は、その発展過程を如実にあらわしてくれる。

面白そうな資料のある位置を知る

そして 図書館の職員(司書というスペシャリスト)と仲良しになる

気に入った場所をいつでも確保できるように図書館に通い詰める

(決してノートなどで席をとらない、自

分の体で確保する)

さて、あなたはわが大学図書館を「しゃぶりつくす」ことができますか。図書館はしゃぶられても図書館に「はまる」人や図書館の達人を待っています。

## 4 月・5 月の図書館催し物のお知らせ

より上手に図書館を利用してもらうために、本年度も特別の行事を行います。新入生はもちろん、在生も奮って参加して下さい。

### 4 月の行事日程

2 日 (土) → 短縮開館

4 日 (月) 平日 ~ 16:30

5 日 (火) 閉館 土曜 ~ 12:30

6 日 (水)

7 日 (木)

8 日 (金)

9 日 (土)

映写会は図書館地下 1 階にある AV ホールで行います。地下への入口は、2 階へ上がる段階の下にあります。

この他にも毎週映写会を行っています。7 月までの日程は 12 ページの図書館だよりをご覧ください。

11 日 (月) → 映 写 会

16:20 ~ 17:45 美女と野獣

12 日 (火)

16:20 ~ 18:10 グリーン・カード

13 日 (水)

16:20 ~ 18:00 天使にラブ・ソングを...

14 日 (木)

14:40 ~ 16:55 ダイ・ハード

15 日 (金)

16:20 ~ 18:05 花嫁のパパ

16 日 (土)

18 日 (月) → 図 書 館  
ツ ア ー

19 日 (火)

20 日 (水)

10:40 ~ 12:00

16:20 ~ 17:40

21 日 (木)

(1 日 2 回行います)

22 日 (金)

23 日 (土)

図書館は、地下 2 階・地上 3 階の 5 階建ての建物です。一般に利用できるのは、1 階、2 階と地下 1 階の視聴覚室に限られています。

ツアーでは普段利用できない地下 1 階、地下 2 階の書庫、3 階の貴重書室を含む全館を案内しながら、図書館のいろいろなサービスについて説明します。



25日（月）	→ <b>本の探し方 ガイダンス</b>
26日（火）	
27日（水）	
28日（木）	
	10：40 ～ 12：00
	16：20 ～ 17：40
	（1日2回行います）

この図書館には、現在約44万冊の蔵書があります。このような多くの資料の中から必要なものを探し出すために、目録が重要な役割を果たしています。このガイダンスではこの目録のしくみと使い方を中心に説明します。

\*ツアーとガイダンスは、希望があればこの日程以外でも個別に行います。  
詳しくはメインカウンターまで。

## 5月の行事予定

5月に以下のガイダンスを行う予定です。詳しいことは提示でお知らせします。

### ☆文学部4年生を対象として

- 日本文学文献検索ガイダンス  
対象：日本文学科4年生
- 英米文学文献検索ガイダンス  
対象：英米文学科4年生

#### 内容

国語・国文学、英米文学・英語学を中心として、研究文献を探すための参考図書（二次資料）の紹介とその使い方の説明をします。またオンラインデータベースについての案内をします。

### ☆歯学部研究者を対象として

- 歯学文献検索ガイダンス

文献を組織的に効率よく探すために、医学中央雑誌、Index to Dental Literatureなど冊子体の二次資料を中心に説明します。

- CD-ROM検索ガイダンス

MEDLINE  
医学中央雑誌の  
使い方を紹介します。

## 新刊あらかると

### ——情報科学・図書館学——

- 二十世紀を騒がせた本 紀田順一郎著 新潮社  
1993 (019.1/K)  
本とコンピューター 津野海太郎著 晶文社  
1993 (020.4/T)

### ——哲学・宗教——

- 明治維新と国学者 阪本是丸著 大明堂 1993  
(121.2/S)  
仏教の日本的土着 古田紹欽著 思文閣出版  
1993 (180.21/F)  
出羽修験の修行と生活 戸川安章著 佼成出版  
社 1993 (188.59/T)  
図説キリスト教文化史 ジェフリー・バラクラ  
フ編 原書房 1993 (190.2/Z)

### ——歴史・地理——

- 明治四十三年の転轍 大逆と殉死のあいだ 河  
田宏著 社会思想社 1993 (210.6/K)  
町人の都 大坂物語 商都の風俗と歴史(中公  
新書) 渡邊忠司著 中央公論社 1993  
(216.3/W)  
海でむすばれた人々 古代東アジアの歴史とく  
らし 門田誠一著 同朋舎出版 1993  
(220/M)  
十字軍 ヨーロッパとイスラム・対立の原点  
ジョルジュ・タート著 創元社 1993  
(230.45/T)  
プラハの世紀末 カフカと言葉のアルチザンた  
ち 平野嘉彦著 岩波書店 1993 (234.8/H)  
幻想の超大国 アメリカの世紀の終わりに D.  
ハルバースタム著 講談社 1993 (253/H)  
オーデュボン伝 野鳥を描きつづけた生涯 C.  
ルーアク著 平凡社 1993 (289.3/A)

最近整理された資料の一部を紹介します。

書名(叢書名)、著者名、出版社、出版年、  
(請求記号)の順になっています。

### ——社会科学——

- アフリカは本当に貧しいのか 西アフリカで考  
えたこと 勝俣誠著 朝日新聞社 1993  
(302.44/K)  
皇室制度—明治から戦後まで—(岩波新書)  
鈴木正幸著 岩波書店 1993 (323.15/S)  
アジア四小龍 いかにして今日を築いたか(中  
公新書) エズラ・F・ヴォーゲル著 中央  
公論社 1993 (332.2/V)  
パリと娼婦たち 1830—1930 ロール・アドレ  
ル著 河出書房新社 1992 (368.4/A)  
私語研究序説 現代教育への警鐘 新堀通也著  
玉川大学出版部 1992 (377.15/S)  
地域民俗論の展開 小川直之著 岩田書院  
1993 (380.1/O)

### ——自然科学——

- 科学史から消された女性たち アカデミー下の  
知と創造性 ロンダ・シービンガー著 工作  
舎 1992 (402.3/S)  
ファラデーが生きたイギリス 小山慶太著 日  
本評論社 1993 (402.33/F)  
数学トリック=スポーツ編 スポーツの中の数  
学発想パズル 仲田紀夫著 講談社 1993  
(410.79/N)  
SFアニメを天文する 福江純著 日本評論社  
1993 (440.4/F)  
地震はどこに起こるのか 地震研究の最前線  
島村英紀著 講談社 1993 (453/S)  
擬態 自然も嘘をつく W. ヴィックラー著  
平凡社 1993 (468.3/W)  
ルーシーの子供たち 謎の初期人類、ホモ・ハ  
ビリスの発見 ドナルド・ジョハンソン等著  
早川書房 1993 (469.2/J)



植物と行事 その由来を推理する 湯浅浩史著

朝日新聞社 1993 (470.4/Y)

動物の博物誌 ホタルからネッシーまで 矢島

稔著 リバティ書房 1993 (480.4/Y)

臨死のまなざし 立川昭二著 新潮社 1993

(490.15/T)

歯原病 悪い噛み合わせがあなたの体を蝕んで

いる 佐藤収著 現代書林 1993 (D04/S)

大学病院の掟 小児科医の見たア然ボウ然事情

柳瀬義男著 講談社 1993 (498.16/Y)

渡来薬の文化誌 オランダ船が運んだ洋薬 宗

田一著 八坂書房 1993 (499.02/S)

#### ——工業・産業——

日本の原発は安全か 赤塚夏樹著 大月書店

1992 (543.49/A)

切断の魔術 佐藤和郎著 裳華房 1993

(573/S)

#### ——芸術・スポーツ——

スリランカ仏教美術入門 伊東照司著 雄山閣

出版 1993 (702.098/I)

美術という見世物 油絵茶屋の時代 木下直之

著 平凡社 1993 (702.16/K)

絵本の歴史をつくった20人 鳥越信編 創元社

1993 (726.5/T)

幕末漂流 松本逸也著 人間と歴史社 1993

(740.21/M)

林光 歌の学校 林光著 晶文社 1993

(760.4/H)

オペラとギリシア神話 楠見千鶴子著 音楽之

友社 1993 (766/K)

千のナイフ、千の目 蜷川幸雄著 紀伊国屋書

店 1993 (772.1/N)

ニッポン・サーカス物語 海を越えた軽業・曲芸

師たち 三好一著 白水社 1993 (779.5/M)

将棋の世界 大内延介著 角川書店 1993

(796/0)

#### ——語学——

翻訳史のプロムナード 辻由美著 みすず書房

1993 (801.7/T)

匙はウサギの耳なりき ドイツ語源学への招待

石川光庸著 白水社 1993 (842/I)

ことばを訪ねて アフリカをフィルドワーク

する 梶茂樹著 大修館書店 1993 (894/K)

#### ——文学——

江戸のノンフィクション 白石良夫・法月敏彦

・渡辺憲司著 東京書籍 1993 (910.25/E)

現代文学と魔法の絨毯 文学史の中の<天皇>

栗坪良樹著 有精堂 1993 (910.26/K)

本文の生態学 漱石・鷗外・芥川 山下浩著

日本エディタースクール出版部 1993

(910.26/Y)

良寛、<独游>の書 北川省一著 現代企画室

1993 (911.15/R)

回想の父茂吉 母輝子 斎藤茂太著 中央公論

社 1993 (911.16/S-6/S)

〔同時代〕としての女性短歌 河出書房新社

1992 (911.16/D)

歌語りの時代 大和物語の人々 山下道代著

筑摩書房 1993 (913.33/Y)

源氏物語に魅せられた男 アーサー・ウェリ

ー伝 宮本昭三郎著 新潮社 1993

(913.367/W)

絵解き万華鏡 聖と俗のイマジネーション 林

雅彦編 三一書房 1993 (913.37/H)

日本の風景を歩く 歴史・人・風土 井出孫六

著 大修館書店 1992 (913.6/I-9)

仮名垣魯文—文明開化の戯作者 興津要著 有

隣堂 1993 (913.6/K-190/0)

日本語の美 ドナルド・キーン著 中央公論社

1993 (914.6/K)

中唐文人考 韓愈・柳宗元・白居易 太田次男

著 研文出版 1993 (921.43/0)

# 図書館だより

## ◎開館日のお知らせ（4月～6月）

### 開館時間

平日 9:00～19:00（但し、水曜日は9:30開館）

土曜日 9:00～16:00

●＝閉館日

□＝開館時間短縮日 平日 9:00～16:30（但し、水曜日は9:30開館）

4

日	月	火	水	木	金	土
					①	②
③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
⑩	11	12	13	14	15	16
⑰	18	19	20	21	22	23
⑳	25	26	27	28	㉑	㉒

5

日	月	火	水	木	金	土
①	②	③	④	⑤	6	7
⑧	9	10	11	12	13	14
⑮	16	17	18	19	20	21
㉒	23	24	25	26	27	28
㉓	30	㉔				

6

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
					3	4
⑤	6	7	8	9	10	11
⑫	13	14	15	16	17	18
⑰	20	21	22	23	24	25
㉒	27	28	29	㉓		

### 図書館の

達人に

### 図書館ツアー

4/18（月）～4/22（金）

なるために

10:40～12:00、16:20～17:40

### 本の探し方ガイダンス

4/25（月）～4/28（木）

10:40～12:00、16:20～17:40

### ◎映写会案内（AVホール）

4/21（木）	ザ・プレイヤー	14:40～16:45
4/25（月）	ゴースト ニューヨークの幻	14:40～16:50
5/10（火）	ファンシイダンス	16:20～18:00
5/20（金）	ジャック・サマースビー	16:20～18:15
5/24（火）	愛がこわれるとき	16:20～18:00
6/ 2（木）	いまを生きる	14:40～16:50
6/ 7（火）	病院へ行こう	16:20～18:20
6/17（金）	フィールド・オブ・ドリームス	14:40～17:05
6/10（月）	ターミネーター	16:20～18:10
7/ 1（金）	フォーエヴァー・ヤング	16:20～18:05

### ◎ADONISの導入について

この5月からADONIS（アドニス）という新しい形態のサービスを開始します。これは、欧米の医学・薬学関係の雑誌約550タイトルの全文が収録されているCD-ROMから、必要な論文をパソコンの画面に表示させ、また、それらをプリントアウトできるシステムです。設置場所は2階カウンター横です。詳しくは、2階カウンターでおたずねください。

アゴラ —— 鶴見大学図書館報 —— 第59号 1994年4月1日発行

編集・発行 鶴見大学図書館 丸山昭二郎

〒230 横浜市鶴見区鶴見2-1-3 ☎ 045-581-1001 FAX 045-584-8197

印刷／朝日オフセット印刷㈱ (045)511-0141